

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月18日
札幌市立北野小学校

1 本年度の重点目標

笑顔でつながる 北野の子～みんなの中で自分らしくある学校～

【落ち着いた考える子ども＜創造力＞・明朗でたくましい子ども＜自律＞・思いやりのある子ども＜人間尊重＞】

2 本年度の経営方針

(1) 主体的に学ぶ力を育む (2) 豊かな心を育む (3) 健やかな体を育む (4) 信頼される学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
知【主体的に学ぶ力を育む】	「学ぶ力」育成プログラムに基づいた「課題探究的な学習」の推進に取り組む。【主体的な学び】 ＜自ら課題を見付け、自ら課題を解決する子の育成＞	B	・ICTを活用したり、自分なりの考えをもてるような工夫をしたりすることで、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、更なる授業改善に取り組む。	A	A
	学校でも家庭でも自らの学びをつなげる学習習慣づくりに取り組む。 ＜自ら課題を見付け、学びをつなげる子の育成＞	A	・自らの学びをつなげるために家庭学習等に各学年で工夫して取り組んだ。引き続き、学年で統一した活動を行ったり、次の学年へのつながりを意識したりして取り組む。	A	A
	「学ぶ力」育成プログラムに基づいた「課題探究的な学習」の推進に取り組む。【対話的な学び】 ＜他者を意識しながら、学び合う子の育成＞	B	・校外学習や出前授業等を通して、対話的・体験的な学びを深めることができた。AARによる学びのサイクルや自治的な活動の在り方について今後も検討していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自らの学びにつなげる習慣づくりを各学年で工夫して取り組んでいる点は素晴らしいと感じる。将来の様々な課題解決の場でもその能力が発揮されるよう、今後も子どもたちが主体的に学ぶ力が育まれることを期待する。ICT機器を活用して学びを進める子どもたちの姿に成長を感じる一方、読書活動などで、紙を使って学習することも重要である。また、子どもの多様性を認め、それに応じた学校の取組を願う。				
徳【豊かな心を育む】	よりよい人間関係をつくるよう指導の充実を図る。 ・「グッディ北野の実践」 ・自治的な活動の展開 ・ふれあい活動の実践 ・「北野の心」に関連した取組 ・特別支援教育の推進	B	・よりよい人間関係の構築のために今年度から始めた「グッディ北野」の取組を継続していく。 ・ふれあい活動では、1年生から6年生まで全学年がふれあい遊びを計画することで助け合いや励まし合いが生まれた成果を次年度も引き継ぐ。 ・次年度は特別支援教育の推進の在り方について、新たな校務分掌を設定し、組織的に推進していく。	A	A
	道徳教育の充実、命を大切にす指導の充実を図る。	A	・今年度から「いのちの学習」と名称を変え、命を大切にすることについて深く考える実践の成果を今後の取組に生かす。 ・SNSについての指導など、時代に即した指導の在り方を更に検討していく。	A	A
	いじめ防止基本方針に基づいた組織的対応、新たな不登校を生まない学校づくりに取り組む。 ・児童アンケート（北野小6月・12月） ・悩みやいじめに関するアンケート（札幌市11月） ・「シャポテンログ」の活用 ・いじめ防止対策委員会（通年）	A	・毎日の「シャポテンログ」の活用やアンケート等によって、いじめを見逃さない体制や新たな不登校を生まない体制を更に充実させる。 ・定例となった「校内学びの支援委員会・いじめ対策組織会議」によって、今後も教職員間の情報と対応の共有化を更に図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	豊かな心を育むために「グッディ北野」や「いのちの教育」など様々な取組が行われていることを高く評価する。引き続きよりよい人間関係につながる活動が充実していくことを期待する。一方で、学校と他の機関で協働して心を育てることに対しては課題がある。				

体 【健やかな体を育む】	「健やかな体」育成プログラムに基づいた「体育・保健体育等の授業」の充実を図る。 ・楽しさ ・自己肯定感 ・自己目標の設定と教師の支援 ・ICTの活用	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用するなどして、楽しさや自己の課題を解決する喜びを味わう体育の授業改善に引き続き取り組む。 体育発表会の取組では、自己の成長を実感できるような取組ができたが、実施することで見えてきた様々な課題を改善していく。 	A	A
	「健やかな体」育成プログラムに基づいた「運動機会」の充実を図る。 ・三間（仲間・時間・空間）の創出 ・中休みや昼休みの外遊び ・運動習慣（RunRun チャレンジ等）	A	<ul style="list-style-type: none"> 「RunRun チャレンジ」、「マット週間」、「跳び箱週間」等を通して、運動機会の保障を継続していく。 中休みや昼休みの外遊びを引き続き推奨したり、スポーツテストの結果を考慮したりして、子どもたちの体力向上を目指す。 	A	A
	「健やかな体」育成プログラムに基づいた「子ども自ら健康の保持増進」の充実を図る。 ・フードリサイクル ・北野のカレー ・いのちの学習（発達段階に応じた性に関する指導）	A	<ul style="list-style-type: none"> 全校児童での「北野のカレー」に向けた野菜作りに取り組むとともにフードリサイクルの指導を継続し、食育指導を一層推進する。 今年度実践した札幌市研究開発事業「生命（いのち）の安全教育の取組の推進」の成果を各学年の指導に生かしていく。 	A	A
学校関係者評価委員による意見	放課後に子どもたちが遊びを工夫したり、集団遊びでの異学年同士で交流したりする姿などが見られる。「中休みや昼休みの外遊び」や「RunRun チャレンジ」など運動機会を意欲的に創出させていることを高く評価する。また、食育として「北野のカレー」に向けた野菜作りやフードリサイクルなどは、北野小学校ならではの素晴らしい取組と感じる。				
信頼される学校	昨年度の学校評価を基に、学年経営、校務分掌の改善に取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事や活動のねらいや各部の年間の動き、学年の動きなどの、各組織間の「つながり」を意識し連携したカリキュラムマネジメントに一層努める。 重点目標に向かうべく、校務分掌の改善を図る。 	A	A
	研修の充実を図り、指導力の向上を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> 礼教研等での校外での研修の参加により授業改善に資するよう努め、職員が学び合う校内研修も更に充実させていく。 授業改善部を研修部とし、学びのユニバーサルデザインの検討、特別支援教育の充実に向けた取組等を推進する。 	A	A
	家庭や地域と連携を図り、学校づくりを進める。 ・小中一貫教育（パートナー校との連携） ・幼保小高との連携 ・町内会、地域との連携 ・専門機関との連携 ・児童会館との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度からのコミュニティ・スクールの充実に向け、パートナー校である北野中学校・北野平小学校と「小中一貫した教育」の推進に取り組む。 地域の幼保小高校や町内会と連携した取り組みを今後も充実させる。 	A	A
	安全・安心な学校づくりに取り組む。 ・安全指導（交通安全指導、避難訓練、登下校等） ・学校・保護者間連絡システム「すぐー」の活用 ・危機管理マニュアル・日々の教育環境整備 ・スクールガード、まちづくりセンター等との情報連携	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内での「防災防犯委員会」を「危機管理委員会」とし、防犯防災以外の様々なリスク（熱中症対策、クマ等の獣害、情報管理等）の未然防止と早期発見、早期対応に組織的に対応する。 学校ホームページや保護者メール「すぐー」の更なる効果的な活用方法を検討し、保護者への情報発信の在り方を改善する。 	A	A
学校関係者評価委員による意見	教職員が余裕をもって仕事に取り組めることが、関係機関との適切な連携につながると感じる。変化が激しい教育現場において、社会教育や地域との更なる連携が必要である。地域との連携やつながりが継続されること、また、取組の情報発信は保護者や地域住民にとって大きな安心感（信頼）につながると感じる。加えて、令和8年度に発足するコミュニティ・スクールの取組が充実していくことを期待する。				